

修復から作品をみる

美術館の作品は、日々のメンテナンスに加え、適切に保管・展示できる状態を保つために修復されることがあります。当館の修復作業は、基本的に専門知識と高度な技術を持つ修復家によって行われます。美術作品の修復は、作品や作家の個性を尊重し、それに適した方法を進める必要があるため、当館の学芸員が修復家とよく話し合い、修復方法を慎重に決定します。

たとえば、山下菊二の〈憑憑CUBA〉は、2023年度に修復された作品です。この作品は、絵具のひび割れや剥離、コラー

成後に付着した糞のみを除去しました。この作品は、蛍光色の絵具が多用されていることから、暗所で紫外線ライトを当てると絵具の部分だけ光ります。そのため、糞が付着した時期の判断は、紫外線ライトを当て、糞が絵具の表面にあるのか内部にあるのかを確認することで行われました。このように、単に汚れを洗浄するのではなく、その汚れが付着した背景を推測することで、作品の美的価値だけでなく作家の意図をも守ることができるのです。しかしながら、これほどの糞が作品に付くような環境で制作していた

村上 早 (むらかみ さき)

〈はおる〉

2024年 リフトグランド・エッチング、スピットバイト 雁皮紙、紙 149.5×117.5cm

「幼い頃の私は本当に臆病を形にしたような人間だったんです。怖いものがたくさんあって、たとえば遊具で遊ぶとか、(中略)私は怖がってしまって全然できなかった。それが恥ずかしくて、でも、その恐怖心を誰にも悟られなくて、ずっとびくびくしながら生きていました⁽¹⁾」という村上早は、大学の授業で「銅版画を教えている高浜(利也)先生に褒められたから銅版画でもやってみよう、と、さすがのように制作を始めて、そうしたら自分の生きてきた半生と、銅版に傷をつけるという行為がすごくしっくりきました⁽²⁾」と銅版画との出会いを語っています。

そして「銅版画自体が傷を付ける技法なので、銅版が人の心で、そこに付ける傷が心の傷で、刷りは血で、拭き取るものは包帯やガーゼだと意識して制作しています。傷を付ける行為自体が加虐と自虐を兼ね備えていて、自分は誰かに傷つけられるし、誰かを傷つけたいというのが常にあるって、それは人間みんなそうだと思います⁽³⁾」と言います。村上の作品の根幹には「傷」があります。〈はおる〉は熊と人の二人羽織。背後の熊が人を抱きかかえるようにして、フォークに突き刺した肉の塊のようなものを食べさせようとしています。しかし塊は人の顔にぶつかり、顔一面に飛び散った液体は腿にまで滴っています。大惨事の様相を呈しています。村上は自身のインスタグラムで、「熊を何年にも渡り描き続けていますが、熊は恐ろしいので好きです。恐怖を感じるものが好きです。『生』も『死』も恐ろしいから描き続けているのだと思います⁽⁴⁾」と記しています。村上が描く恐ろしさには、人を惹きつける力があります。

村上は1992年に群馬県に生まれ、武蔵野



美術大学、同大学院で学びました。在学中の2015年に「FACE 2015 損保ジャパン日本興亜美術賞」優秀賞、「第6回山本鼎版画大賞展」大賞、「トーキョーワンダーウォール公募2015」トーキョーワンダーウォール賞、「シェル美術賞2015」入選と、立て続けに入選・受賞を重ね、注目を集めました。2019年には上田市立美術館で個展「gone girl 村上早展」を開催したほか、グループ展への出品も重ねるなど、精力的に大型の銅版画作品を発表し続けています。当館では令和6年度の新収蔵作品として、2015年のトーキョーワンダーウォール賞を受賞した〈めぐらす〉から今回紹介した2024年の大型作品の最新作〈はおる〉まで6点の村上の作品が、コレクションに加わりました。

(主席 安達一樹)

- (1)「銅版画、私の傷。インタビュー-村上早」『版画芸術』No.190 2020冬 阿部出版 2020年12月 p.55
- (2) 同前
- (3)「インタビュー 村上早 銅版画家」『SANPOMYUZE』vol.07 サントミューゼ 2018年12月20日 p.3
- (4) インスタグラム do_han_saki 2024年9月21日



パブロ・ピカソ(ドラ・マールの肖像)1937年 当館蔵

開館35周年記念展

キミに夢中♥

ー学芸員のおしごとと愛しき人間像コレクションー

2025年4月26日[土]ー8月31日[日]

*会期中、一部作品の展示替えを行います。

はじめに

徳島県立近代美術館は1990年11月3日に開館し、今年で開館35周年を迎えます。当館では、「人間」をテーマとする近代・現代の絵画や彫刻、「現代版画」、そして「徳島ゆかりの美術」という3つの柱に基づいて作品の収集を行っています。本展ではその中から「人間像コレクション」と学芸員の仕事に焦点をあて、全館を用いて展示します。当館には、ここでしか見られない個性的な作品が集まっています。学芸員たちはそうした愛しき「人間像コレクション」=「キミ」とどう関わっているのでしょうか。一般的に学芸員の仕事として挙げられる「収集」「保存」「調査研究」「展示」「教育普及」の5つの章を設け、仕事のなかで発見したことやエピソードなどと共に「キミ」の魅力を、愛いっぱいに語ります。



パウル・クレー〈子供と伯母〉1937年 当館蔵



アンリ・マティス 〈版画集〈ジャズ〉2.サーカス〉1947年 当館蔵(4月26日-6月29日展示)

ここでは、それぞれの仕事について作品と共に簡単に紹介します。

学芸員って何する人？

学芸員とは、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究などの事業を行う「博物館法」に定められた、博物館(美術館、科学館、動物園などを含む)におかれる専門的職員です。
当館には4月現在8人の学芸員が在籍していて、日本の洋画、彫刻、版画、西洋近代美術、現代美術、保存修復、教育普及などの分野を担当しています。

収集

美術館における収集は、単なる物集めではなく、作品を未来に届けるという重要な活動です。美術館として預かった素晴らしい作品を、未来の世代が見て感動し、新しい発見をすることができるよう収集に取り組んでいます。そして、何を収集していくのかは、その館の個性を決めることにつながります。当館ではこれまで展覧会や教育普及活動などにおいて「人間像コレクション」と共に個性豊かな活動を展開してきました。まさに、収集は美術館活動の基礎にあたると言えるでしょう。この章では、当館の代名詞とも言えるパブロ・ピカソの〈ドラ・マールの肖像〉から、2024年度に収集した村上早の作品までを展示します。当館における収集活動の変遷を概観します。

保存

収集された作品は、美術館のデータベース

に登録され収蔵庫に保管されます。収蔵庫は一定の温湿度が保たれるなど、作品の保護に適した環境になっています。しかし、展示すると、ものに照明を当てる必要があり、光による退色が生じることがあります。保存の観点から言えば、展示公開をせず収蔵庫の中に安置しておけば劣化などを抑制することができますが、そ

の場合、みなさんに見てもらうことができません。作品を良い状態で後世に残すため、保存と活用のバランスに注意しながら、両立させることが大切です。この章では、美術館における作品保存の工夫や、山下菊二の〈憑憑CUBA〉など、近年修復された作品についてご紹介します。

調査研究

調査研究は学芸員の仕事の基本です。具体的には、作品や作家に関する資料を読んだり、作品をすみずみまで観察したりします。また、作家や遺族から直接お話を伺ったりすることもあります。そうした地道な努力があって、論文や展覧会企画に結びつきます。特に、所蔵作品や作家についての調査研究は重要です。毎年発刊される研究紀



河井清一〈休み日〉1928年 当館蔵



横山大観〈樹下苦行〉明治後期 当館蔵(7月8日-8月31日展示)

要や展覧会等において、その成果をまとめています。この章では、調査研究の重要性や、取り組みについてご紹介します。石丸一の作品や、伊原宇三郎によるスケッチなど、徳島ゆかり作家による作品を中心に展示します。

展示

展覧会はまさに作品たちの「晴れ舞台」です。展覧会を開催することによって、多くの人々に調査研究の結果や作品の魅力を紹介することができます。そのために学芸員は、通常数年前から準備を行います。この章では、展覧会が出来上がるまでの過程や、作品に合わせた展示の工夫などをご紹介します。

教育普及

教育普及の仕事は、いわば作品と美術館利用者をつなぐことです。当館では、誰もが気軽に美術に親しんでもらえるよう、展示解説やワークショップなどのイベントの企画や、ワークシートの制作をしています。また、学校教育と連携した事業も積極的に実施しています。この章では、当館の普及の記録や、鑑賞サポートツールをご紹介します。アンリ・マティスの版画集〈ジャズ〉など、子供たちとの鑑賞の中で親しまれてきた作品も並びます。

おわりに

美術館で働いているのは学芸員だけではありません。展示室内で作品の安全を見守る監視スタッフ、館内を美しく保つ清掃スタッフ、収蔵庫や展示室の温湿度管理などを行う中央監視室のスタッフなど、多くの人が関わって美術館を運営しています。また、何よりも来館者のみなさんがいるからこそ美術館は成り立っています。これから、当館が40周年、50周年と時を刻んでいく中で、より愛される「人間像コレクション」を形成し、そして、より愛される美術館であり続けられるよう活動していきたいと思っています。
(学芸員 久米千裕)

「キミに夢中♥」展に関する催し

おやこ鑑賞ツアー

4月29日〔火・祝〕、7月21日〔月・祝〕
いずれも11時-11時30分

展示解説

5月6日〔火・振休〕、6月22日〔日〕、8月3日〔日〕
いずれも14時-15時

ベビーカーおさんぽツアー

5月18日〔日〕 11時-11時30分

あの手この手で触図づくり

5月25日〔日〕 14時-16時

作品の展示体験ワークショップ

6月1日〔日〕 14時-16時

手話通訳付き展示解説

6月22日〔日〕 10時-11時30分

こども鑑賞クラブラボ

6月28日〔土〕 10時30分-12時

こども鑑賞クラブ+

7月26日〔土〕 14時-14時45分

保存のお仕事体験ワークショップ

8月10日〔日〕 14時-16時

あの手この手で交流トーク

8月17日〔日〕 14時-16時30分

参加方法など詳細は
ホームページをご覧ください。
<https://art.bunmori.tokushima.jp/kimi>



アリスティード・マイヨール
〈蒼衣のボモナ〉
1921年 当館蔵

Crazy for You♥
-Curator's Work and Beloved Human Figure Collection-

徳島県立近代美術館ニュース

第133号 2025年3月31日発行(4月号)
第133号 2025年3月31日発行(4月号)

発行: 徳島県立近代美術館

770-8070 徳島市八万町向寺山

文化の森総合公園

TEL:088-668-1088 FAX:088-668-7198

美術館や展覧会についての情報は

当館ホームページをご覧ください。

<https://art.bunmori.tokushima.jp/>

